

おとなも子どもも、
こんな学校に
行きたかった！

監督：オオタ ヴィン
「いただきます」シリーズ

テストがない
宿題がない
「先生」がない
日本でもっとも
楽しい学校

ナレーション
吉岡秀隆
エンディングテーマ
ザ・ブルーハーツ

夢みる小学校

2月4日(金)よりロードショー!トークイベント開催します。

※開始時間は劇場HPでご確認ください。コロナ対応で開催変更される場合があります。満席が予想されますのでオンライン予約をおすすめいたします。

シネスイッチ銀座 映画出演者 舞台挨拶&トークショー

※舞台挨拶&トークイベントの上映回は、本編からの上映開始となります。

◎2月4日(金)

10:50の回 終了後
尾木直樹 & オオタ監督
(教育評論家)

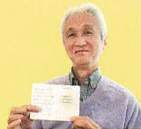


◎2月11日(祝・金)

① 12:50の回 終了後
② 14:50の回 終了後
辻信一 & オオタ監督
(文化人類学者)

◎2月5日(土)

14:50の回 終了後
堀真一郎 & オオタ監督
(きのくに子どもの村学園学園長)



◎2月12日(土)

① 12:50の回 終了後
② 14:50の回 終了後
西郷孝彦 & オオタ監督
(世田谷区立 桜丘中学校 前校長)

◎2月6日(日)

① 14:50の回 終了後
② 16:50の回 終了後
茂木健一郎 & オオタ監督
(脳科学者)



◎2月13日(日)午後回

① 12:50の回 終了後
② 14:50の回 終了後
加藤博 & オオタ監督
(南アルプス子どもの村中学校校長)

アップリンク吉祥寺

ちよっとディープなトークショー

トークゲスト達の裏面のコメント読んでね

◎2月4日(金)午後の回

田中栄子(スタジオ4°C代表) & オオタ監督
トークテーマ「自分の力で考える子どもへ」

◎2月5日(土)夕方の回

島村菜津(作家) & オオタ監督
トークテーマ「絵本のような映画の作り方」

◎2月6日(日)午前回の回

星野概念(精神科医・ミュージシャン) & オオタ監督
トークテーマ「発達障害」の凸凹は宝物なんです」

◎2月11日(祝・金)夕方の回

前川喜平(元文部科学事務次官) & オオタ監督
トークテーマ「もっと教育の自由を」

◎2月12日(土)夕方の回

公立小学校教師 & オオタ監督
トークテーマ「夢みる公立小学校」

銀座4丁目交差点 和光ウラ通り/全席指定・入換制

シネスイッチ銀座

www.cineswitch.com 03-3561-0707

★公開期間中「親子割引」あり!

大人1人・中学生以下のお子さん1人で2000円
★2/5(土)、2/6(日)は来場者プレゼントあり!

吉祥寺バルコ地下2階/全席指定・入換制

UPLINK 吉祥寺

www.joji.uplink.co.jp 0422-66-5042

激動のAI時代に対応するため、2020年度から教育指導要領が、「探求学習(アクティブラーニング)」に大きく舵を切り、日本の公教育が揺れています。30年前から「体験学習」を実践している先進的な学校があります。宿題がない、テストがない、「先生」がいない、きのくに子どもの村学園です。わくわくするシーンの連続、童心に帰ったような初々しい感動。希望あふれる“ミライの教育ドキュメンタリー”の誕生です。

文部科学省選定映画

家庭向き 令和3年12月20日

COMMENT & REVIEW



予告編
見てね!

島村菜津 (作家)

映画の中で、教師の背や教室の片隅でうとうと居眠りする子供たちの姿を覗いていると、何だか泣けてきた。映画を観た大人たちにも温かな居場所を作ってくれるような、美しい絵本のような作品である。

小雪 (俳優)

子どもがやりたいことを自分で選択できる。親が教育を自由に選択できる、そんな世の中になるといいな。

公立小学校教師

「公立だからできない」そんなことはない。子供と向き合い学校を作っていく、そもそも「学校は作っていくもの」。そういう大切なことを教えてもらいました。公立学校の先生にこそ一緒に見てほしいです!

前川喜平 (現代教育行政研究会)

大人と子どもがともに自由に学ぶ場所。子どもが最大限に成長する場所。これこそ本当の学校だ。

星野概念 (精神科医・ミュージシャン)

既存の学級に馴染めないというだけで「発達障害」と言われてしまうこどもは思いのほかに多いはず。大人からは凸とか凹に見えるこどもの側面は、その人の宝物かもしれないのです。

プロデューサー・監督・撮影:オオタヴィン
制作・著作:まほろばスタジオ 宣伝:テレザ 配給:きろくびと
2021年/日本/カラー/91分

木村泰子 映画「みんなの学校」出演者 前大空小学校校長

この映画は「公教育」の問い直すべき「学校のあたりまえ」を示唆してくれています。私自身 映画からかけがえのない“学び”をいただきました。

窪塚洋介

(俳優、ミュージシャン)

煌くほどの希望と踊る日々大騒動 未来の鼓動 誰だって昔は夢みる子ども

汐見稔幸 (東京大学名誉教授)

子どもは任せられ、信頼されればされるほど、自分に深い肯定感を身につける。それは多分世界への愛の原点になる。

50代主婦

あたたかく人として大切なものがそこにはあり、そうなんだよ、そうだよねと、映画開始直後からずっと涙が止まりませんでした。

苫野一徳 (教育評論家)

学校にあるべきものが全部ある。あの“空気感”を、映像を通して味わえる。なんて貴重で、贅沢な映画なんだろう。

田中栄子 (スタジオ4° C 代表)

自分の子供には、そうさせたくない。自分の未来を自分で切り開く力を与えてあげたい。(途中2~3回涙ぐみました) この映画を見たら、誰もが感化されると思います。

小学生が
作りました

